

水戸市台渡里遺跡(茨大運動場地点) 発掘調査現地発表会資料

(所在地：水戸市渡里町前原 2839)

今回の目的

茨城大学の教育・研究活動、今回の発表を通して地域への社会貢献を目的とします。

調査のきっかけ

現地は国定指定史跡・台渡里廃寺跡のすぐ隣接地であり、かねてより重要な古代遺跡が埋蔵されているとみられていました。今年6月の水戸市の調査で、この地点の近くから、これまで想定されてこなかった「豪族居館」に伴うとみられる堀が発見されました。そこで、今回はその「豪族居館」の存在を確かめることを目標として調査を行いました。

今回の成果

台渡里遺跡では、7世紀後半に建設された台渡里廃寺と、8世紀以降の那珂郡家を構成する正倉院跡(倉庫群)が隣接していることが知られていました。これに加えて、今回の調査では、きわめて至近距離にそれらに先立つ古墳時代の「豪族居館」が存在していたことが確定的となり、さらに、そのおよその規模と形状を確認することができました。確認された箱形の堀は、通例の豪族居館よりもかなり立派な作りとなっています。

「豪族居館」と、そのあとに作られた古代の郡の「正倉」とが、同一調査地点で発見されることは極めて異例のことであり、古墳時代から奈良時代への移行期において、地方政治の担い手が引き続き同一集団の手に握られていったことを示唆しており、全国的にもきわめて価値の高い資料とみられます。



